

OGUNI

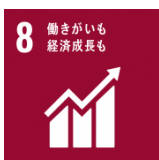


ESD

Education for Sustainable Development



SDGs未来都市 小国町



SDGs とは

Sustainable Development Goals

— 持続可能な開発目標 —

現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。

SDGsは、2015年9月に開かれた国連サミットで世界国々・地域のリーダーの全会一致によって決められた国際社会共通の目標。この国連サミットでは、2015年から2030年までの長期的な開発の指針として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この2030アジェンダの中核文書が、SDGs（持続可能な開発目標）です。SDGsは、17のゴール（目標）と169のターゲット（指標）で構成されています。

SDGs未来都市

地方創生を一層促進するために、環境モデル都市・環境未来都市による「環境未来都市」構想を更に発展させたのが、SDGs未来都市です。

SDGsの手法を取り入れて戦略的に進めていくことにより、日本全体における持続可能な社会づくりの推進を図り、その優れた取組を世界に発信していくことを目的としています。

2018年から30程度の自治体が、国（内閣府）から「SDGs未来都市」に選定されています。小国町は、2018（平成30）年度に国から「SDGs未来都市」に選定されました。

ESD とは

Education for Sustainable Development

— 持続可能な開発のための教育 —

ESDとは、持続可能な社会づくりを進めるため、グローバルな視野を持つ担い手育成を目的とする教育です。地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと（think globally, act locally）を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。2002年に開催された国連の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で日本が提唱しました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





小国町が作成した「SDGsの解説書」。これを読めば、SDGsのことや小国町の取組がなんとなく分かるというユルさがあり。



第1回おぐの自然・暮らし・お財布（SDGs）のことを考えるフォーラム（2019年1月19日）にて。小国中学校の生徒たちが事業の一環として第2部「ゲームでSDGs」に参加。有識者、官僚、吉本興業所属の芸人が一堂に会したフォーラム。わが国のエネルギー環境分野の第一人者である柏木孝夫・東京工業大学特命教授、藤田壮・国立環境研究所センター長、木村敬・内閣府企画官（当時）、高島昌明・東京理科大学特任教授（当時）、そして吉本興業所属の芸人・からし蓮根とともに。



解説書の中の「小国すごろく」。遊びながら、SDGsのことを学ぶことができるので、学校の教材としても人気。



柏木孝夫先生とからし蓮根の掛け合いで盛り上がる会場。からし蓮根の参加は、SDGsの取組に積極的な企業・吉本興業さんの協力で実現。



環境モデル都市選定（2013年度）をきっかけに始まった小学校での環境授業。



川久保俊・法政大学准教授による特別授業。小国町の全中学生が初めてSDGsを学んだ。



からし蓮根の杉本青空さん（右）は、小国中のOB。地元ネタに生徒たちも大爆笑。



小学校の授業参観の様子。児童たちは、保護者と一緒にSDGsすごろくでSDGsを学ぶ。



省エネ住宅体験会@福岡の一コマ。真剣に環境や省エネ住宅について学ぶ中学生たち。



毎年行っている小国中での環境・SDGs教育。生徒たちも積極的に発言する。



2024年発行 新千円札肖像画に 北里柴三郎博士

北里柴三郎博士の教え — 学習と交流 —



4 質の高い教育を
みんなに



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

小国町は、世界的細菌学者・北里柴三郎博士生誕の地です。博士の残した『学習と交流』の精神は、小国町のまちづくりの柱として受け継がれています。

世界的細菌学者・日本近代医学の父

北里柴三郎博士



Dr. KITASATO Shibasaburo

わが国が誇る世界的な細菌学者・北里柴三郎博士は、1853年1月29日（嘉永5年12月20日）、北里村（現小国町大字北里）の庄屋北里惟信の長男として誕生しました。

1871（明治4）年、熊本医学校に学び、さらに東京医学校（現東京大学医学部）に進み、卒業後、内務省衛生局に勤務、国の留学生として結核菌の発見者であるドイツのローベルト・コッホに師事。ここで貴重な研究業績を次々に発表、とりわけ破傷風菌の純粋培養法の確立（1889年）と血清療法の発見（1890年）は前人未踏のもので、世界の医学界にその名をとどろかせました。

帰国後、福沢諭吉などの援助により、伝染病研究所を設立、わが国の近代医学に大きな足跡をとどめました。1914（大正3）年、自力で北里研究所を創設、1931（昭和6）年に死去するまで、終生わが国の公衆衛生、医学教育、医療行政の発展に貢献しました。



北里柴三郎記念館

北里柴三郎博士の生家や博士から小国町に寄贈された北里文庫を改修し、偉業をたたえている記念館。

この施設は生前、博士が1916（大正5）年に建てた貴賓館、北里文庫があった敷地に、1987（昭和62）年、博士の学問を受け継ぐ北里研究所、北里学園が中心になって博士の生家の復元修復を行うとともに、北里文庫の建物を利用して博士に関する遺品などを陳列し、小国町に寄贈された。

（問）小国町北里3199 ☎0967-46-5466



（一財）学びやの里・木魂館

「学習と交流」という博士の理念を次代につなげることを目的として1988（昭和63）年に建設された研修宿泊施設。町の地域づくりの中心施設のひとつとして全国から地域づくりのリーダーが集う。（問）小国町北里371-1 ☎0967-46-5560



うるるん体験

都市で暮らす中学生対象の農村体験プログラム。小国町の一般家庭に宿泊し、農林業などを体験。受入生徒は、毎年約2,000人。



ムラの暮らし研究所

柴三郎博士の「学習と交流」と提唱した志を受け継ぎ、1997年に九州ツーリズム大学が開校。同大の後継として地方に活力を見出すために「ムラの暮らし研究所」開設。

編者
監修

熊本県小国町
柏木孝夫・東京工業大学特命教授
藤田壮・国立環境研究所センター長

イラスト
発行

香蘭女子短期大学保育学科
熊本県小国町政策課
熊本県阿蘇郡小国町宮原1567-1
〒869-2592 TEL 0967-46-2111（代）